

2016年1月18日

各位

株式会社大和総研

ミャンマー中央銀行基幹システム引渡し式典の実施 ーミャンマー中央銀行初の基幹業務 IT システムの稼働開始ー

株式会社大和総研（代表取締役社長：深井崇史、本社：東京都江東区、以下 大和総研）が構築に携わったミャンマー中央銀行の基幹業務 IT システムである CBM-NET システム（CBM Financial Network System）の引渡し式典が、2016年1月18日に同国ヤンゴン市のミャンマー中央銀行で開催されました。

本プロジェクトは独立行政法人国際協力機構（以下 JICA）による無償資金協力事業として実施されたもので、大和総研は2014年5月にCBM-NETシステムにおけるICT基盤の構築を受注しました（※1）。構築作業は2015年12月に完了し、2016年1月5日より稼働を開始しました。

同式典には、ミャンマー側からミャンマー中央銀行のセ・アウン副総裁をはじめとしたミャンマー金融市場関係者らが出席しました。また、日本側からは在ミャンマー日本国大使館、JICAをはじめ、CBM-NETシステムの開発に携わった関係者として、大和総研、株式会社NTTデータ（以下 NTTデータ）等が出席しました。式の冒頭にミャンマー中央銀行から日本関係者への感謝の意が伝えられ、その後、日本側を代表して樋口建史駐ミャンマー日本国特命全権大使からの挨拶、記念撮影などが行われました。この様子は現地のメディアにも取り上げられ、CBM-NETシステムの稼働がミャンマーで大きく注目されていることが確認されました。

【本件の背景】

ミャンマーでは資本市場の確立が急ピッチで進んでおり、金融政策を担うミャンマー中央銀行の役割はますます重要性を増しています。日本政府は官民一体でミャンマーへの支援を表明しており、金融分野は重要な推進分野の一つに位置づけられています。

また、大和総研は1990年代よりミャンマーの資本市場育成に向けた活動を、証券市場整備、ITインフラ整備の両面から行ってまいりました。ミャンマー中央銀行とは「証券取引所設立及び資本市場育成支援への協力に関する覚書（2012年5月）」および「IT分野の支援に関する覚書（2013年5月）」を締結し、制度、IT、人材育成等の各分野において継続的に支援を行っております。

CBM-NETシステムはミャンマーの金融基盤として、これまで紙による手作業で行われていた金融取引の大幅な迅速化や信頼性・安全性の向上といったメリットをもたらし、ミャンマーの経済発展に大きく寄与することが期待されています。

【システムの概要】

今回構築された CBM-NET システムは、銀行間の資金決済、国債決済、担保管理等の機能を持つ中央銀行基幹システムであり、ミャンマー中央銀行と外国銀行を含めた市中銀行（全 38 行）を専用回線で接続する、ミャンマー初の中央銀行基幹業務 IT システムです。本システムの ICT 基盤を大和総研が構築し、ICT 基盤上で稼働する中央銀行基幹アプリケーションを NTT データが開発しました。この ICT 基盤は効率性と拡張性に優れ、日本でも多くの導入実績があるクラウド技術を用いて構築しました。

また、CBM-NET システムの稼働に先立ち、大和総研が開発・構築したミャンマー中央銀行内の OA 環境である CBM-OA システムが、2015 年 5 月より稼働しています。CBM-OA システムは、セキュリティや業務継続性に優れたシンクライアントシステムで構成されており、ミャンマー中央銀行の業務効率化に貢献しています。

<写真：引渡し式典の様子>



(※1) 2014 年 5 月 30 日付プレスリリース

「ミャンマー中央銀行より ICT インフラ構築を受注 ―国内で推進しているクラウドを海外向けに展開―」

http://www.dir.co.jp/release/2014/20140530_008580.html

以 上